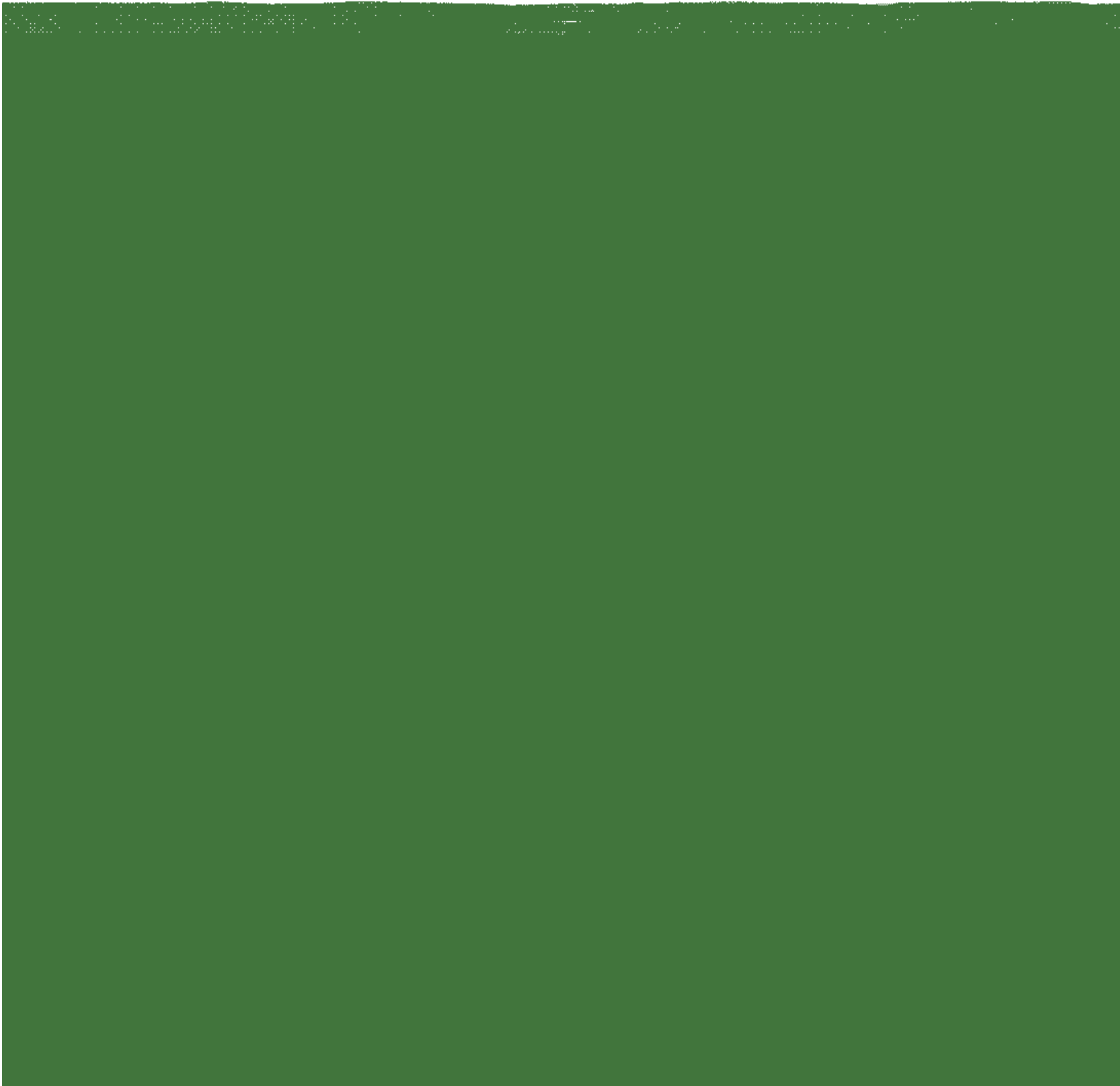
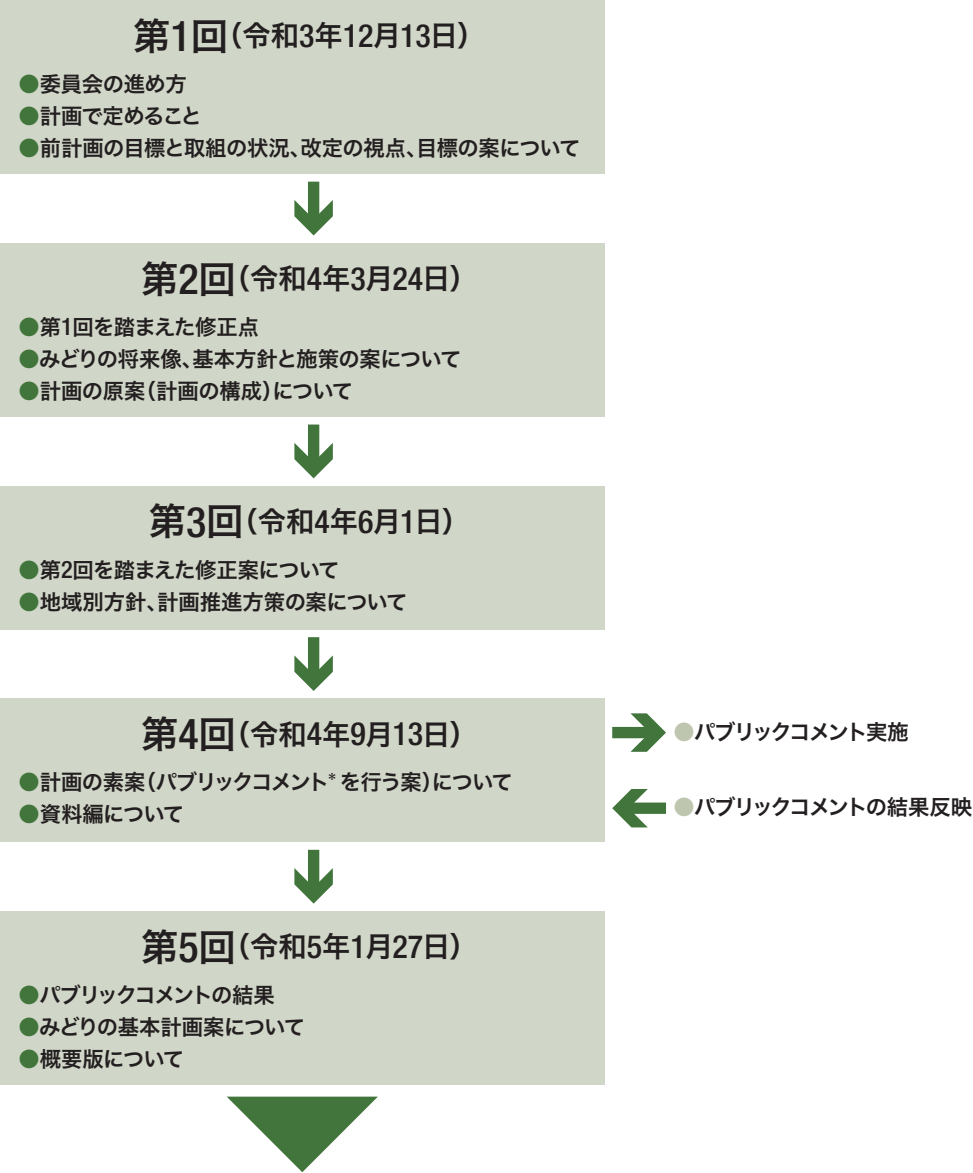


資料編



豊島区みどりの 基本計画策定の経緯

豊島区みどりの基本計画策定委員会



計画策定(令和5年3月中旬)、HP・冊子(令和5年4月)

策定委員会構成メンバー

(敬称略)

学識経験者(会長)	東京農業大学 教授	入江 彰昭
学識経験者(副会長)	千葉大学 准教授	竹内 智子
関係団体	豊島区観光協会 会長	近江 正典
関係団体	豊島みどりの会	紫垣 敬子
関係団体(企業)	西武造園株式会社	沖 三奈絵
関係団体(企業)	東邦レオ株式会社	清水 真樹
区民委員		久崎 諒也
区民委員		波多江 美由紀
区民委員		前野 益子
区職員	環境清掃部長	高桑 光浩(～令和4年4月)
区職員	環境清掃部長	橋爪 力(令和4年5月～)

2資料編

前施策の進捗状況

(平成 27 年度から令和 3 年度まで)

平成 27 年度～令和 3 年度の間に取り組むべきとして上げた施策について、実施状況を把握した結果、施策及び取組の大部分が達成、または継続して実施されています。（太字は本計画の重点取組）

前計画の施策		実施状況 の 評価 ◎：達成 ○：継続中	評価の内容
1. みどりのネットワークをつくる			
風とみどりの道の形成	①池袋副都心軸のみどりのネットワーク化の推進	◎・○	【池袋副都心再生推進事業】「基盤整備方針」「コアゾーンガイドライン」などの関連計画に基づき、民間都市開発事業計画に対して新たなオープンスペースやみどりの整備を要請
	②都市計画道路整備によるみどり軸の形成	◎・○	【都市計画道路の整備事業】都市計画道路の用地買収及び道路整備、中高木を中心とした整備
	③既存道路の再整備等による快適な歩行者空間の創出	◎・○	【区道の整備事業】環境や景観等に配慮した区道の改修工事の実施
	④神田川側道の桜並木の保全・活用	◎・○	街路樹等の維持管理
	⑤谷端川の緑地の維持管理	○	【公園等維持管理運営事業】谷端川緑道の緑地を良好な状態に維持管理
	⑥都立霊園のみどりの保全・活用	○	「雑司ヶ谷霊園再生のあり方について」等を受けて継続して区内霊園の管理について都と連携し実現を目指す
学校等を中心としたみどりのネットワーク形成	①「学校の森」の育成	○	学校と地域で「学校の森」を守り育てている
	②学校の校庭芝生化	○	【小・中学校みどりの整備事業】長崎小学校など芝生化された校庭について、適切な維持管理を実施。巣鴨北中学校の改築時には敷地南側部分を芝生広場として整備
	③学校の屋上緑化・壁面緑化の推進	○	R4 竣工の池袋第一小学校において屋上緑化、壁面緑化をこれまでの学校以上に整備
	④学校の緑縁空間づくり	○	R4 竣工の池袋第一小学校において「森の中の学校」というコンセプトで周辺部分も含めた緑縁空間づくりをすすめている
エコロジカルネットワーク形成	①みどりと水の保全・創出とつながりの確保	○	地域が管理する公園・ビオトープの数：3 カ所

前計画の施策			実施状況 の 評価 ◎：達成 ○：継続中	評価の内容
エコロジカルネットワーク形成	②生態系に配慮した公園づくり		○	公園等の新設、既存公園等の拡張・再整備の設計時に、生態系に配慮
	③学校教育でのビオトープづくり		○	改築校（小学校）等では、ビオトープの内容を児童に検討してもらい、それを設計に反映させ整備する（目白小学校で実施済み）
2. 日常生活でふれあえるみどりを広げる				
公共施設の緑化	①公共施設緑化の推進		○	みどりの条例による緑化計画書の提出の実施
	②公共施設の緑地管理	●計画的な管理	○	実施中
		●区民参加による緑地管理	○	みどりの条例によるみどりの協定：範囲を定めて緑化についての協定を結んだ緑化活動団体に対して、協定を認定し支援、花壇協定件数 41 件（協定箇所数）
		●「いのちの森」「学校の森」の維持管理	○	【「グリーンとしま」再生プロジェクト事業】高密度都市豊島区をみどり豊かなまちにするため区立小中学校・施設・公園等で H21 年度以降、植樹・育樹を実施
民有地の緑化	①指導・協議による緑化		○	みどりの条例による緑化計画書の提出 年度平均届出数：70 件、緑化数量（H15 ～累計）：地上部 884,742.85 m ² 、屋上部 24,155.42m ²
	②壁面緑化による指導内容の充実		○	壁面緑化数量（H15 ～累計）2,721.14m ²
	③接道緑化助成		○	接道緑化に必要な費用の一部助成：緑化数量（H19 ～）319 m
	④屋上緑化・壁面緑化の啓発と助成		○	つる植物の苗木を年 2 回配布：緑化数量（H19 ～）13,735 株
	⑤保護樹木・樹林・生垣の指定		○	一定の基準の樹木・樹林・生垣を保護樹木等として所有者の同意を得て指定、維持管理費の一部を助成 指定本数樹木：327 本、樹林：60,049.05m ² 、生垣：1,027.4 m
	⑥みどりの協定の推進		○	継続中だが、公共施設以外の「みどりの協定」については協定数が少ない
	⑦大規模民間施設の建築物の緑化推進		○	みどりの条例による緑化計画書の提出 一定規模以上の建築行為について、基準以上の緑化計画書の提出を求め、緑化を実施

前計画の施策			実施状況 の評価 ◎：達成 ○：継続中	評価の内容
民有地の緑化	⑧緑化推進制度の活用		○	地区計画・市民緑地への制度の活用を検討
	⑨緑化重点地区の活用		○	豊島区全域を緑化重点地区に指定している
	⑩公開空地等の緑化の質の向上		○	みどりの条例による緑化計画書の提出 一定規模以上の建築行為について、基準以上の緑化計画書の提出を求め、緑化を実施
あらゆる都市空間の緑化推進	①立体的な緑化の推進		○	池袋西口駅前広場モザイカルチャー設置 環境のシンボルとして設置、区民及び来街者・地元との協働による維持管理活動の継続
	②街なか緑化の推進	●界わい緑化推進プログラム	◎*	【界わい緑化推進事業】の立上げ、「向う三軒両隣方式」による緑化推進のため、セミナー開催、コミュニティ形成支援（*：実績がなくH30年度をもって事業終了）
		●商店街を中心とした緑化推進	◎*	【界わい緑化推進事業】の立上げ、「向う三軒両隣方式」による緑化推進のため、セミナー開催、コミュニティ形成支援（*：実績がなくH30年度をもって事業終了）
	③小広場の緑化		○	居住環境総合整備事業による小広場の新設
	④都電敷の緑化		○	区民活動団体による地域づくり等の事業に対する補助（都電大塚駅から向原駅間の都電沿線のバラによる緑化事業）
	⑤雨水の地下浸透の促進		○	公園等の新設、既存公園等の拡張・再整備の設計時に、雨水の地下浸透を可能な限り検討・実施
都市の防災性を向上するための緑化推進	①防災性向上に配慮した緑化の推進		○	としまみどりの防災公園等、防災機能を要した公園の新設等
	②生垣化の促進		○	接道緑化助成
3. みどりをみんなでつくり・育て・考える				
区民参加によるみどりのまちづくり	①区民参加によるみどりの空間づくり		○	南池袋公園や池本だんだん公園等において、協議会を設置し公園のあり方を検討する取組を実施
	②区民参加によるみどりの空間の管理		○	●「南大塚バラロード」緑化事業 ●朝日ほのぼのランド事業 ●豊島のみどりを守り豊かな街づくりのための活動 ●巣鴨・庚申塚エリア活性化事業 等

前計画の施策			実施状況 の評価 ◎：達成 ○：継続中	評価の内容
区民参加によるみどりのまちづくり	③「としま生きものさがし」の実施		○	【生物多様性支援事業】区民参加による生きもの調査を実施し、生物多様性への関心を高めるとともに情報共有の仕組みを作る
	みどりの啓発事業の推進		○	【「グリーンとしま」再生プロジェクト事業】H18より区立小学校をモデルに始め、R3は15校、約937㎡、区内公共施設では49施設、約1,117㎡の緑のカーテンを形成
	②緑化講習会の開催		○	生涯学習活動を支援、生涯学習事業の講座を展開、区の職員が学習団体に向けて区の施策等の「出前講座」を実施
	③生物多様性に関する観察会の実施		○	【環境教育・啓発事業】生物多様性に関する観察会の実施（「生きもの観察ツアー」、「冬の野鳥観察会」、「街の生きものさがしウォーキングツアー」）
	④落ち葉等のリサイクルの促進		○	公園・児童遊園等の樹木をせん定して出るせん定枝葉を集めて、たい肥化しリサイクル、区立公園内での再利用は現在未実施
	⑤人々のネットワークの充実		◎*	【界わい緑化推進事業】を立上げ、「向う三軒両隣方式」による緑化推進のため、セミナー開催、コミュニティ形成支援（*：実績がなくH30年度をもって事業終了）
	⑥緑化情報の発信		○	ホームページを活用し緑化関連情報を発信
	⑦みどりの名所を巡るルートづくり		◎・○	【観光案内標識整備推進事業】Hareza 池袋やトキワ荘マンガミュージアムの開館などにあわせ、池袋駅周辺を中心に観光案内標識の新規設置や修繕を実施（◎）標識の維持管理に加え、雑司が谷地域からの要望に応えるべく、今後の標識整備を検討中（○）
	⑧みどりの基金の充実		○	みどりの基金積立金
	⑨交流都市と連携したみどりの拡大		○	各都市へのソメイヨシノ苗木の提供などを実施。現在はコロナ禍で休止中
	⑩染井よしの発祥地としてのPR		○	ソメイヨシノプロジェクトの推進と地域団体への事業助成
区民や事業者の主体的な緑化活動支援	①みどりのボランティアや活動団体への支援の促進		○	区民活動団体による地域づくり等の事業に対する補助
	②民間基金と連携した緑化の推進		○	みどりの基金の充実に向けたPR

前計画の施策			実施状況 の評価 ◎：達成 ○：継続中	評価の内容
4. 拠点となるみどりを増やす				
拠点となる 公園の配置	①計画的な配置		○	公園等の新設・既存公園等の拡張・再整備
	②今後整備する公園等の検討		○	実施中
	③立体都市公園の検討		◎	中池袋公園 整備済
防災機能を 有する公園の 整備促進	①造幣局東京支局移転後の跡地活用の検討		◎	としまみどりの防災公園（IKE・SUNPARK イケ・サンパーク） 整備済
	②高田小学校の跡地活用の検討		◎	雑司が谷公園 整備済
大規模公共 施設の緑化			○	みどりの条例による緑化計画書の提出 一定規模以上の建築行為について、基準以上の緑化計画書の提出を求め、緑化を実施
民有緑地の 保護・保全・活用	社寺・大学等の樹木・樹林保全の制度の充実		○	一定の基準の樹木・樹林・生垣を保護樹木等として所有者の同意を得て指定、維持管理費の一部を助成、保護樹木と保護樹林には責任賠償保険に区の費用で入る
5. 地域の人々に愛され、親しまれる公園を育てる				
公園の維持管理			○	【障害者公園清掃委託事業】区立公園・児童遊園等の清掃・除草業務委託を障害福祉サービス事業所等で行う
公園の利用管理			○	公園の正しい利用の指導や公園施設の整備保全等、巡視員により巡回点検を実施
公園の再整備			○	公園等の新設、既存公園等の拡張・再整備
公園の 活用・運営			○	【イケ・サンパーク Park-PFI 事業】

3 資料編 豊島区の概要

区の概要

【人 口】283,595人（令和4年4月1日時点）：人口密度全国一

【世帯数】176,073世帯（令和4年2月1日時点）

【位 置】東京23区の西北部に位置する：

東経139度43分 北緯35度44分（区の中央部）

【面 積】13.01 km²：

23区中18番目の広さ

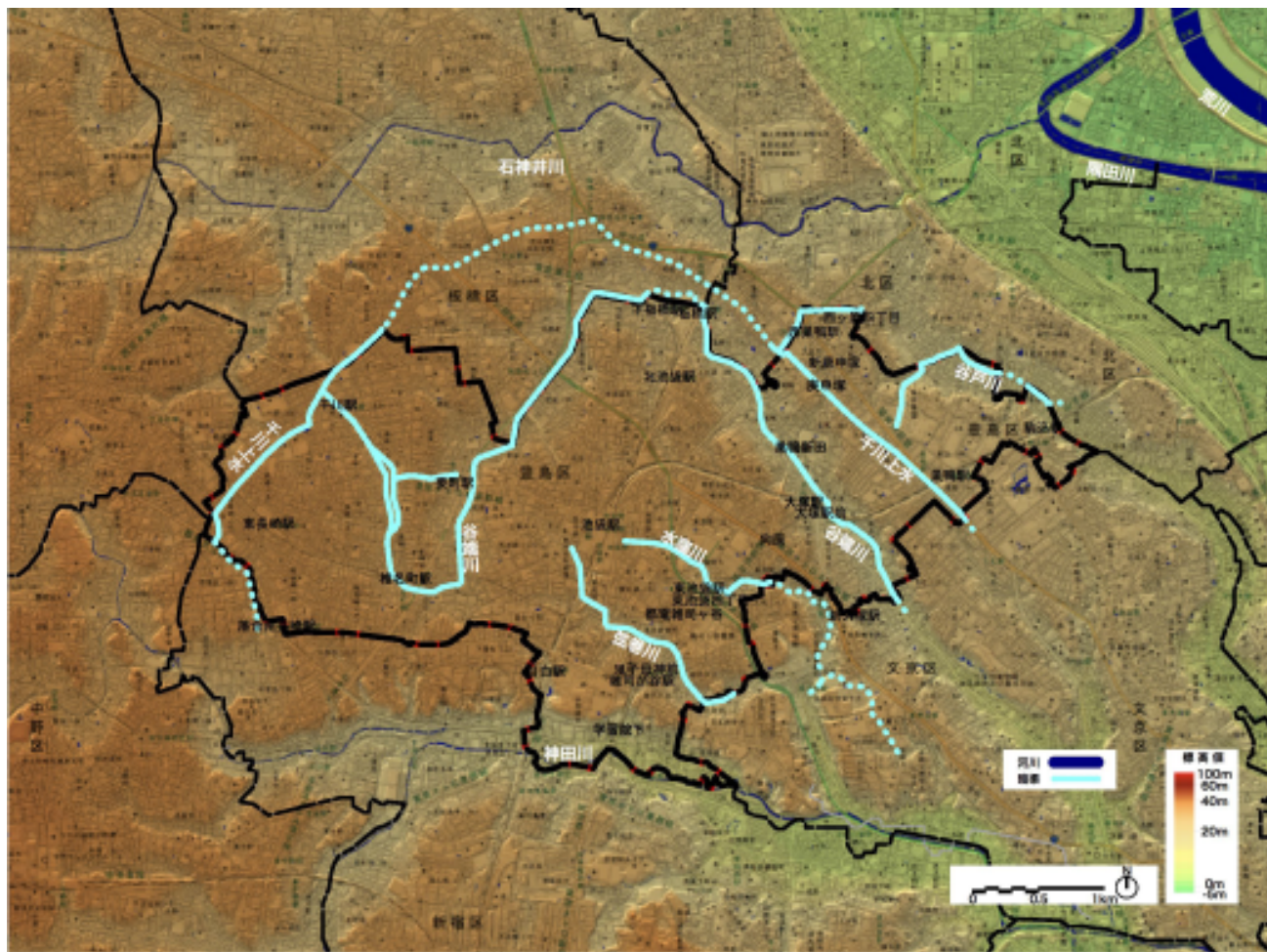
東京都総面積の0.595%、区部面積の2.1%

【地 勢】東西6,720m、南北3,660m：「鳥が羽を広げたかたち」



地形

●北を荒川、南を多摩川に挟まれた武蔵野台地の東端に位置し、谷戸川（谷田川）、神田川、弦巻川、谷端川などの流れによって削られた台地と複雑な谷が織りなす変化のある地形（東京湾海面を水準として高地36m、低地8m）



【図】標高地形図

資料：「デジタル標高地形図 東京都区部とその周辺【技術資料 D1-No.860】（国土地理院）」をもとに作成

地質

●関東ローム層と呼ばれる火山灰土で覆われた武蔵野台地に位置する



【図】地層分布図

水辺

●区内で水面を見られるのは新宿区との境を流れる神田川のみであり、谷端川、弦巻川、谷戸川（谷田川）、千川上水などの河川や用水路は暗渠となっている

●近年、神田川は水質改善が進み、アユが遡上し、ドジョウが生息するなど区内の貴重な水辺となっている

●暗渠となった河川・用水路においても、谷端川緑道や千川親水公園など緑道や公園として一部が整備されている

●「霜降橋」のように、かつての橋の名称が交差点名に付けられるなど、現在もその名残が息づいている



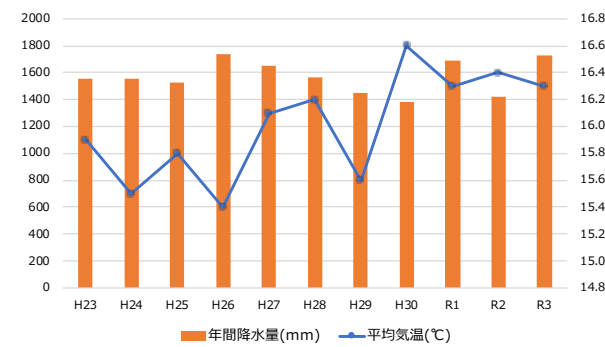
【図】河川・水路図
資料：豊島区景観計画（R4.6 改定）

気象

●豊島区の平均気温：15～16℃程度 年間降水量：1,400～1,800mm程度

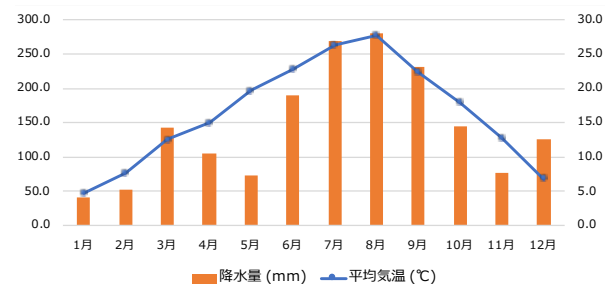
●令和3年における本区に近い観測地点での気象状況は、年平均気温16.3℃、年間降水量1,730mm

過去10年間 年ごとの値						
年		気温(℃)			平均風速 (m/s)	降水量 (mm)
		日平均	日最高	日最低		
2011	平成23年	15.9	20.8	11.9	0.7	1553.5
2012	平成24年	15.5	20.2	11.7	0.8	1558.0
2013	平成25年	15.8	20.9	11.5	1.7	1527.5
2014	平成26年	15.4	20.4	11.3	1.6	1740.0
2015	平成27年	16.1	20.7	12.2	1.6	1647.0
2016	平成28年	16.2	20.9	12.2	1.6	1565.5
2017	平成29年	15.6	20.5	11.4	1.6	1452.5
2018	平成30年	16.6	21.4	12.4	1.5	1384.0
2019	令和元年	16.3	21.0	12.3	1.6	1692.0
2020	令和2年	16.4	21.1	12.4	1.4	1418.0
2021	令和3年	16.3	21.4	12.1	1.4	1730.0



【図】年平均気温及び降水量の推移

2021年 月ごとの値					
月	気温(℃)			平均風速 (m/s)	降水量 (mm)
	日平均	日最高	日最低		
1月	4.7	9.9	0.0	1.4	40.0
2月	7.6	13.7	1.9	1.9	52.0
3月	12.5	18.0	7.7	2.0	143.0
4月	15.0	20.9	9.8	1.7	104.0
5月	19.7	24.7	15.2	1.3	72.0
6月	22.8	27.7	19.1	1.0	189.0
7月	26.3	30.9	23.1	0.9	269.0
8月	27.7	32.1	24.3	1.2	280.0
9月	22.3	26.2	19.2	1.1	231.0
10月	17.9	22.5	14.2	1.3	144.0
11月	12.7	18.1	8.1	1.1	77.0
12月	6.8	12.0	2.4	1.6	126.0



【図】令和3年の月平均気温及び降水量の推移
資料：気象庁 観測地点：練馬

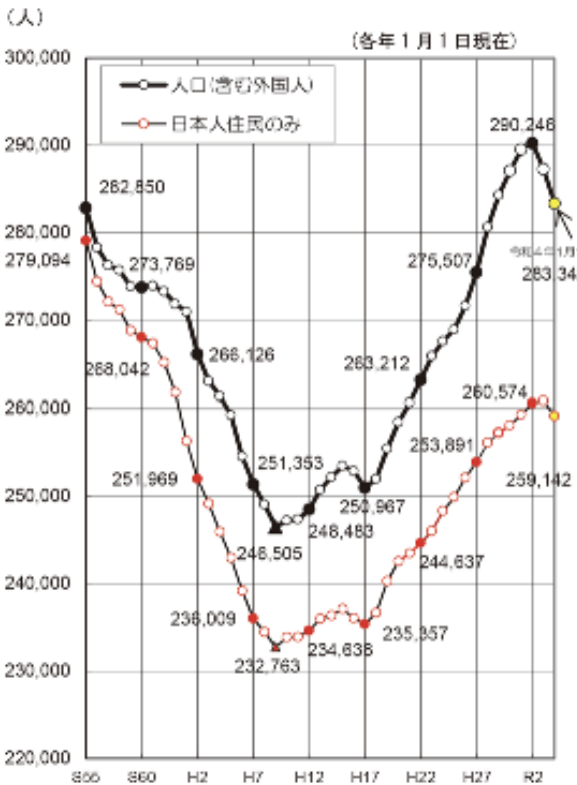
【表】気象状況

人口

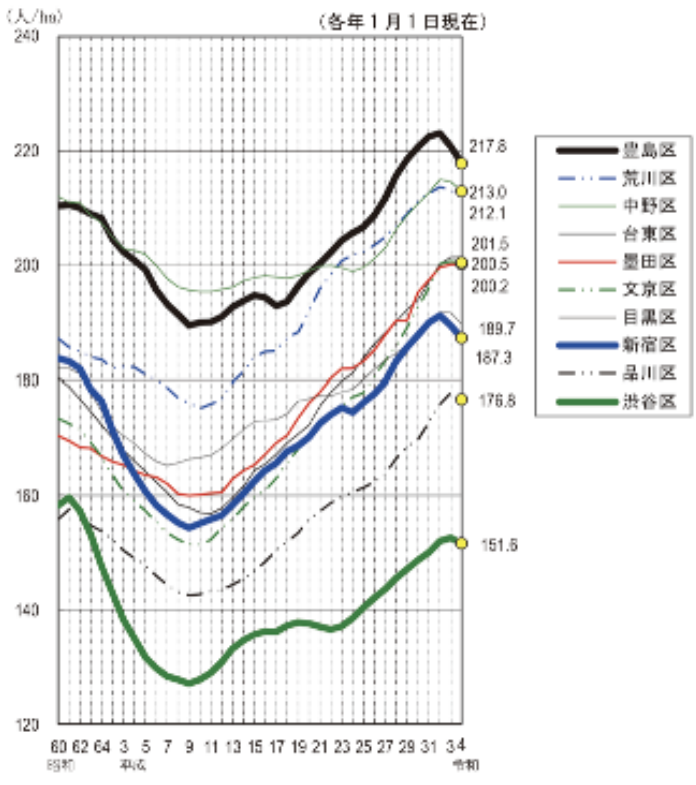
- 豊島区の人口は、令和4年1月時点で約28万3千人
- 人口密度は、23区内でも高い水準で推移し、近年は中野区を上回り、令和4年1月時点で217.8人/haと全国一
- 平成9年を底に平成14年まで増加傾向が続いてい

た区の人口は、平成15年、平成16年の2年間一時的に減少し、平成17年には再度増加した

●今後の人口見通しは、東京が人口減少社会へと移行するにあわせて、本区においても人口減少へと向かうと考えられる



【図】人口の推移

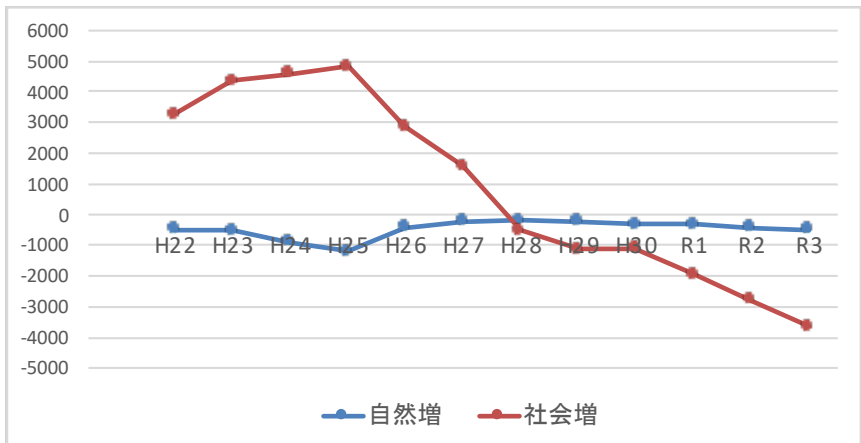


【図】各区の人口密度の推移

資料：豊島区未来戦略推進プラン 2022 より

- 豊島区の人口動態をみると自然動態では出生が死亡を下回る自然減となっている
- 社会動態では、平成23年から平成25年までは毎

年4,000人以上が増加。以降転出が転入を上回っており令和3年では約3,600人の社会減となっている



【図】人口動態の推移

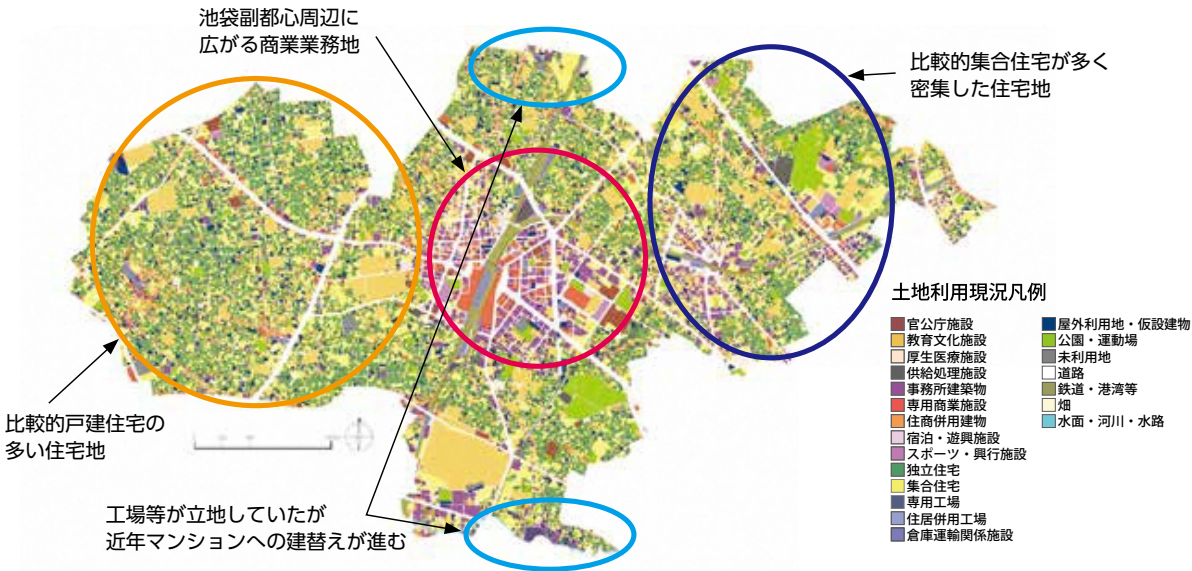
資料：住民基本台帳より作成

土地利用

●土地利用現況

- 平成23年の土地利用現況は、公共用地約13%、商業業務用地（事務所、住商併用、その他商業用地）約17%、住宅用地（独立住宅及び集合住宅）が約56%、工業用地約3%、その他約11%

- 商業施設や事務所は池袋駅を中心とした副都心区域に多く、鉄道駅周辺、幹線道路沿道及び旧街道沿いにも分布し、複合的な土地利用が多くを占めているのも特徴



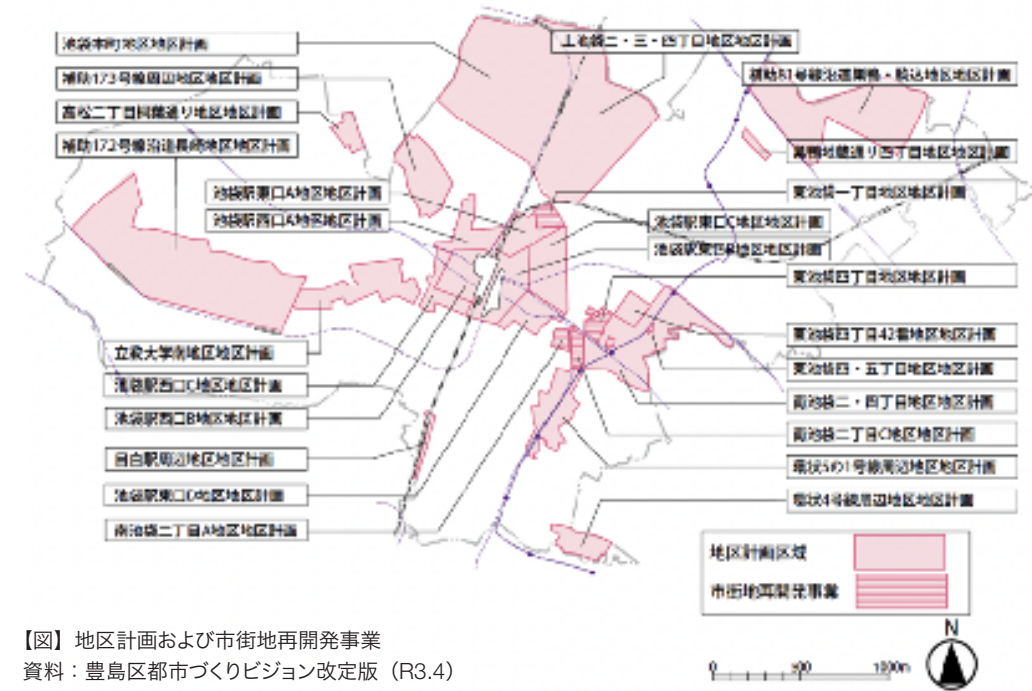
【図】土地利用現況

資料：豊島区都市づくりビジョン改訂版（R3.4）

●市街地整備の状況

- 市街地整備の状況は、都市計画道路の整備など土地利用の変化にあわせて、用途地域の変更や沿道での防火地域指定、地区計画制度の活用（計25地区、367.6ha）が進む

- 東池袋4丁目地区は商業、業務、住宅、南池袋2丁目では豊島区本庁舎と商業、住宅が複合した市街地再開発事業が行われている



【図】地区計画および市街地再開発事業

資料：豊島区都市づくりビジョン改訂版（R3.4）

交通環境

●道路

●幹線道路は、現在事業中の路線が完成すると、放射線で9割超、環状線では約8割が整備される

●池袋副都心アプローチ道路の事業化や狭あい道路拡幅整備事業が進んでいる

●鉄道

●区内には、JR東日本（山手線ほか5駅）、東武鉄道（東武東上線3駅）、西武鉄道（西武池袋線3駅）、東京メトロ（丸ノ内線・有楽町線・副都心線・南北線9駅）、都営地下鉄（三田線・大江戸線3駅）がある

●東京メトロ副都心線が開通し、目白駅、大塚駅、東長崎駅及び椎名町駅において、自由通路や駅前広場の整備など駅周辺整備が進展している



【図】都市計画道路整備状況

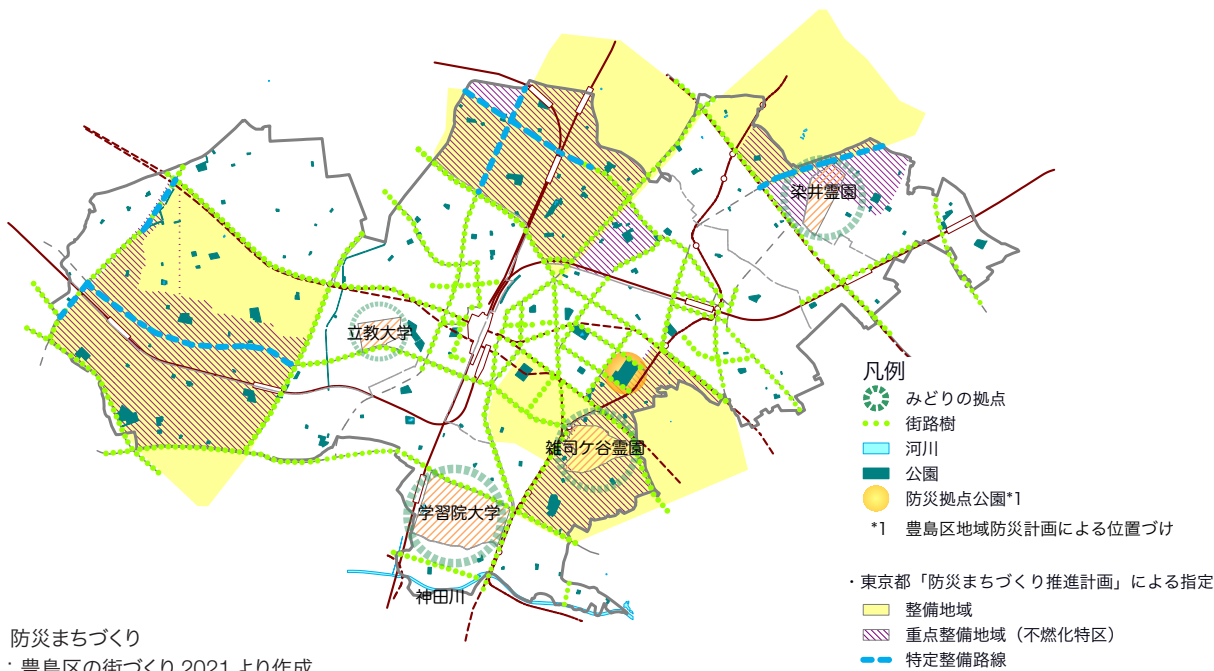
資料：豊島区都市づくりビジョン改定版（R3.4）

防災

●防災まちづくり

●東京都「防災まちづくり推進計画」（令和2年3月）において豊島区内では5地区が不燃化特区に、5路線7区間が特定整備路線に指定されている

●豊島区は木造住宅密集地域（木密地域）が4割を占めており、公園や街路樹などのみどりによる延焼防止対策が求められている



【図】防災まちづくり

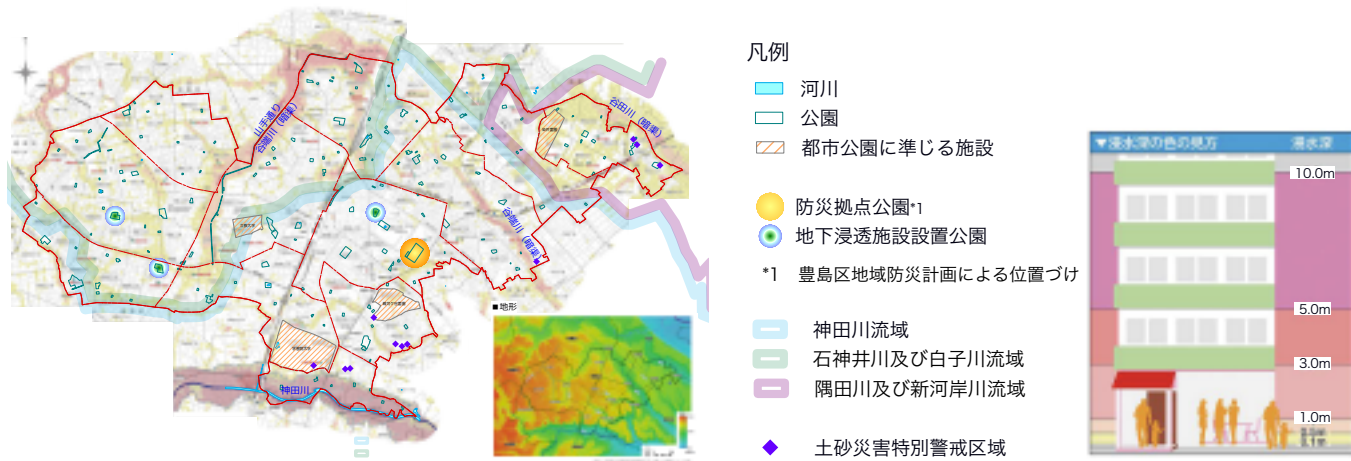
資料：豊島区の街づくり 2021 より作成

●浸水予想区域・土砂災害警戒区域

●豊島区で想定している大雨の規模（石神井川および神田川流域は総雨量690mm・時間最大雨量153mm）の場合、谷地形となる神田川沿いや谷端川沿いが浸水予想区域となっている

●区の一部に土砂災害警戒区域がある

●公園、児童遊園において流出抑制施設（浸透枳、浸透U型側溝、透水管）を93公園に設置、地下浸透施設を6公園（合計646m2）に設置している（平成27年4月1日現在）



【図】浸水予想区域・土砂災害警戒区域

資料：豊島区洪水・内水ハザードマップ（神田川・石神井川・隅田川版 R4.1）より作成

景観

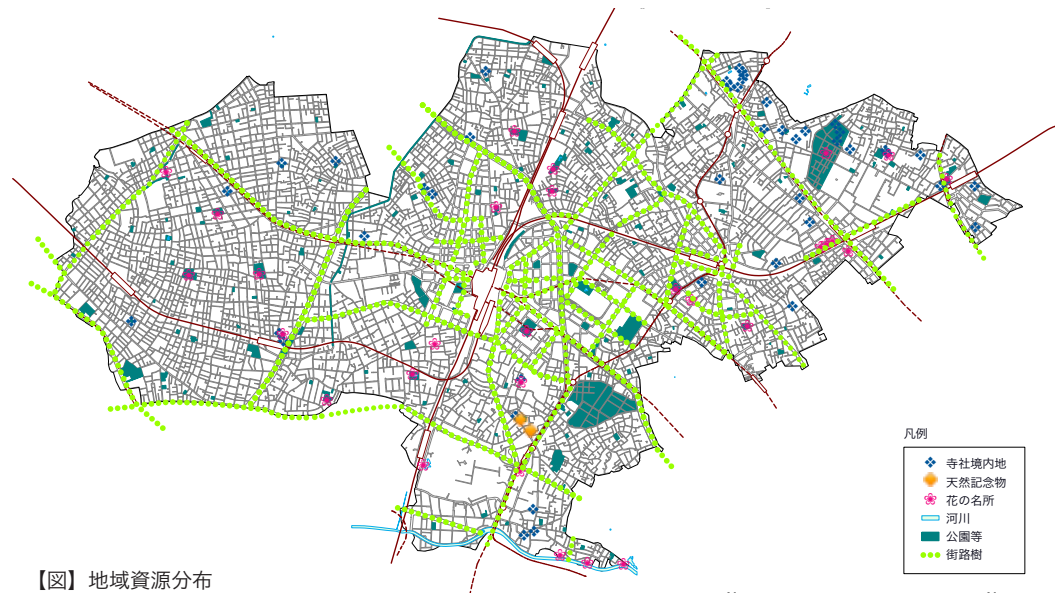
●都市化が進んでいる中でも、染井霊園及び雑司ヶ谷霊園の周辺をはじめ多くの寺社があるほか、文化財や都電荒川線などがあり、歴史と文化を感じる景観資源が分布している

●人為的な影響が少なく自然状態を保つ樹林は、学習院大学の西側と南側の斜面に唯一残る。また、東部地域や神田川付近の高低差がある南部地域では坂道が多く特徴的な景観となっている

●池袋駅周辺は、東京北西部のターミナル拠点として

区内最大の商業地を形成し、大規模百貨店や東京芸術劇場が立地し、サンシャインシティとその周辺までの広域にわたって、商業、業務、文化・芸術、情報などの多彩な都市機能が集積する副都心を形成している

●これらの商業施設や公共施設などを結ぶ主要な通りは、買い物や遊興などで訪れた多くの人々が行き交い、にぎわいを見せおり、その中でも駅前のグリーン大通りや劇場通りは、区を代表する並木道として親しまれている



【図】地域資源分布

この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号)4都市基文著第107号

歴史

●区名の由来・区のおいたち

●豊島区は、昭和7年、東京市郡合併により近郊82カ町村が東京市に編入され、新たに20区が設けられ、それまで北豊島郡下にあった巣鴨町・西巣鴨町・長崎町・高田町の4つの町が統合されたもの

●区名については、4町協議の結果、北豊島郡がなくなることから、この郡の中心にあたる由緒ある名前を残すことが決められ「豊島区」が誕生した

●「豊島」の地名は、古代律令制下の武蔵国の郡名

●近世（江戸時代）

●江戸時代は7か村、人口は約3,000人前後

●下高田・雑司谷・巣鴨・上駒込の各村には、大名の下屋敷や抱屋敷が多く見られ、巣鴨には御薬園、雑司谷には御鷹方組屋敷、御犬飼小屋があったが、その他はほとんどが農地

●水田は神田川流域の低地、谷端川・弦巻川・谷戸川沿いに多少見られたが、ほとんどが畑地で、江戸市中へ出荷する野菜の栽培が盛んであった（駒込なす・巣鴨だいこん・巣鴨こかぶ・滝野川ごぼう・長崎にんじん）

●駒込は庭木栽培に向き、多くの植木屋が軒を並べ、特につつじ、さつきの栽培が有名で、品種改良も盛んに行われ一大園芸都市をなしていた

●近代（明治～大正）

●明治元年、江戸は東京と改称され中心部に東京府がおかれる

●武蔵野の原野が広がり農家が散在する光景は江戸末期と変わりがなく、わずかに中山道に沿った巣鴨と、雑司が谷の鬼子母神が賑わいを見せる

●明治7年、雑司ヶ谷霊園、染井霊園が開園

●明治18年、日本鉄道の赤羽一品川間が開通し、目白駅が開業して以来、池袋―田端間の開通と大塚・巣鴨・池袋駅の開業（明治36年）と進み、山手線の発達とともに移住者が増える

●現代（昭和～令和）

●昭和7年の4町合併により豊島区が誕生

●昭和16年、日本は太平洋戦争に突入 戦後、自治権拡充の動きの中で、副都心池袋を中心に大きく発展した



●日本を代表する桜の品種「ソメイヨシノ」も駒込（染井）の地が発祥

●巣鴨も菊づくりで知られ、特に趣向を凝らした菊の形作りが評判を呼び、江戸市中より菊見の人で賑わう

●中仙道など

街道沿いに町場地域がつくられはじめる



鬼子母神
資料：
豊島区の街づくり
統計図説 2013

●明治40年代に入ると、豊島師範学校の開校、学習院、大正、立教大学の区内への移転が相次ぎ、次第に学生の街としての姿を整えていく

●大正年間に入ると、東上鉄道（大正3年）、武蔵野鉄道（同4年）が開通し、池袋は交通の重要拠点となり、関東大震災（大正12年）後、本格的な市街地化が進み、区内人口は20万をこえるほどに増加



染井之植木屋



「池袋のまち」

文化資源

●区内には、3つの国指定文化財をはじめとする、それぞれの地域に根付いた特色ある文化資源が数多くあり、地域の歴史を継承する祭事・催事などが行われ、そうした地域固有の文化を活用した新たなまちづくり

も各地で展開されている

●劇場・映画館などの文化拠点も数多くあり、近年、池袋を中心に、マンガ・アニメ関連施設が続々と集積している

●国指定重要文化材



豊島長崎の富士塚



自由学園明日館



法明寺鬼子母神堂

資料：豊島区広報パンフレット

●豊島区の文化資源



資料：豊島区国際アート・カルチャー都市構想

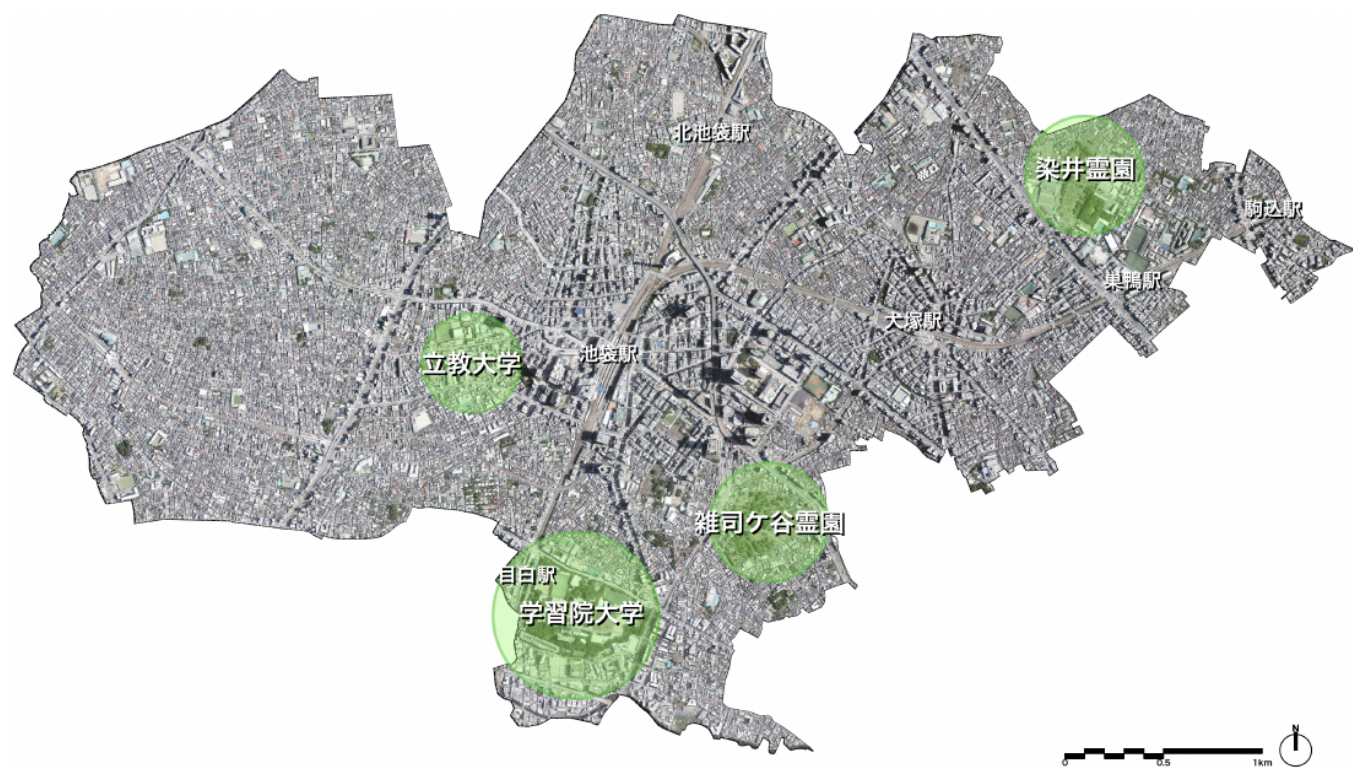
4 資料編 豊島区のみどりの現状

自然環境

●緑地の現況

- 区内のほとんどは市街化されており、規模の大きな緑地は、学習院大学、雑司ヶ谷霊園、染井霊園が貴重なまとまりのあるみどりとなっている
- 自然のままの環境を残すまとまったみどりは学習院大学内の森（スダジイ林）が唯一で、都内でも希少な自然林である

- 区民の森（目白の森、池袋の森）なども規模は小さいが貴重な緑地・水辺となっている
- 雑司ヶ谷霊園には、小規模だが区内では貴重な草地在点している
- 一方、住宅地を中心に小規模な緑被が多く分布しており、住宅地などの庭木も重要なみどりとなっている



資料：豊島区全域の航空写真（R元.6撮影）

●生きものの状況

- 平成24年度に実施した区内の主な緑地における現地調査では、マヤラン、コカブトムシ、ツミなどの希少種も確認されている
- 学習院大学、雑司ヶ谷霊園は樹林性鳥類の生息環境として機能していると考えられている

- 昆虫類は樹林性の種が主に学習院大学で、草地性の種が主に雑司ヶ谷霊園で確認されたが、過去の文献と比較すると、雑木林や湿性環境、草地環境などに生育する種が減少しており、そうした生きものの生息・生育に適した環境も減少していることがうかがえる

緑

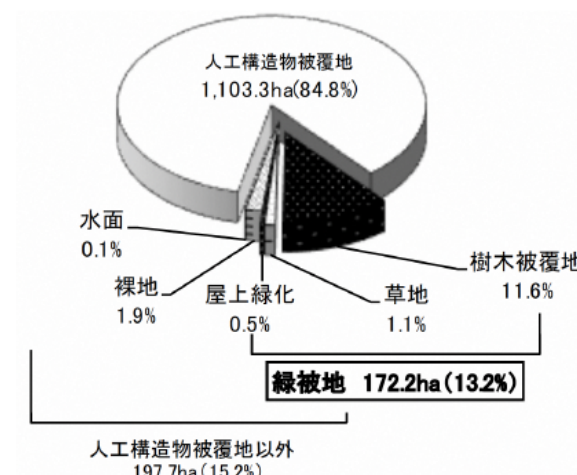
●豊島区の緑被率：13.2%（令和元年度）・・・東京23区中19位

- 区内の緑被地面積は172.16haで、区全域の緑被率は13.23%
- 豊島区の緑被地の構成は、樹木被覆地*が緑被地面積の約9割を占め、草地と屋上緑化が約1割
 - ▶ 主な樹木被覆地の分布地：雑司ヶ谷霊園、染井霊園、学習院大学等の大学、面積規模の大きい公園、社寺境内地、街路樹
 - ▶ 主な草地の分布地：鉄道沿線、南池袋公園等にとまって分布

- ▶ 主な屋上緑化の分布地：区役所、池袋駅周辺の大規模商業施設等
- 緑被地の推移は、平成21年度～平成27年度において緑被率の変化はないが、平成27年度から令和元年度においては緑被地が4.95ha増加し、緑被率0.38ポイント上昇で、増加要因は既存樹木の生長、街路樹整備、学校等の新設に伴う屋上緑化の増加などによる
- 区の緑被地面積の割合は、公共の緑が50%、民有地の緑が50%（令和元年度）

項目	面積(ha)	構成比(%)
人工構造物被覆地以外	197.71	15.20
緑被地	172.16	13.23
樹木被覆地	151.45	11.64
草地	14.41	1.11
屋上緑化	6.30	0.48
裸地	24.64	1.89
水面	0.91	0.07
人工構造物被覆地	1,103.29	84.80
合計	1,301.00	100.00

【表】豊島区内の緑被地等の面積と割合

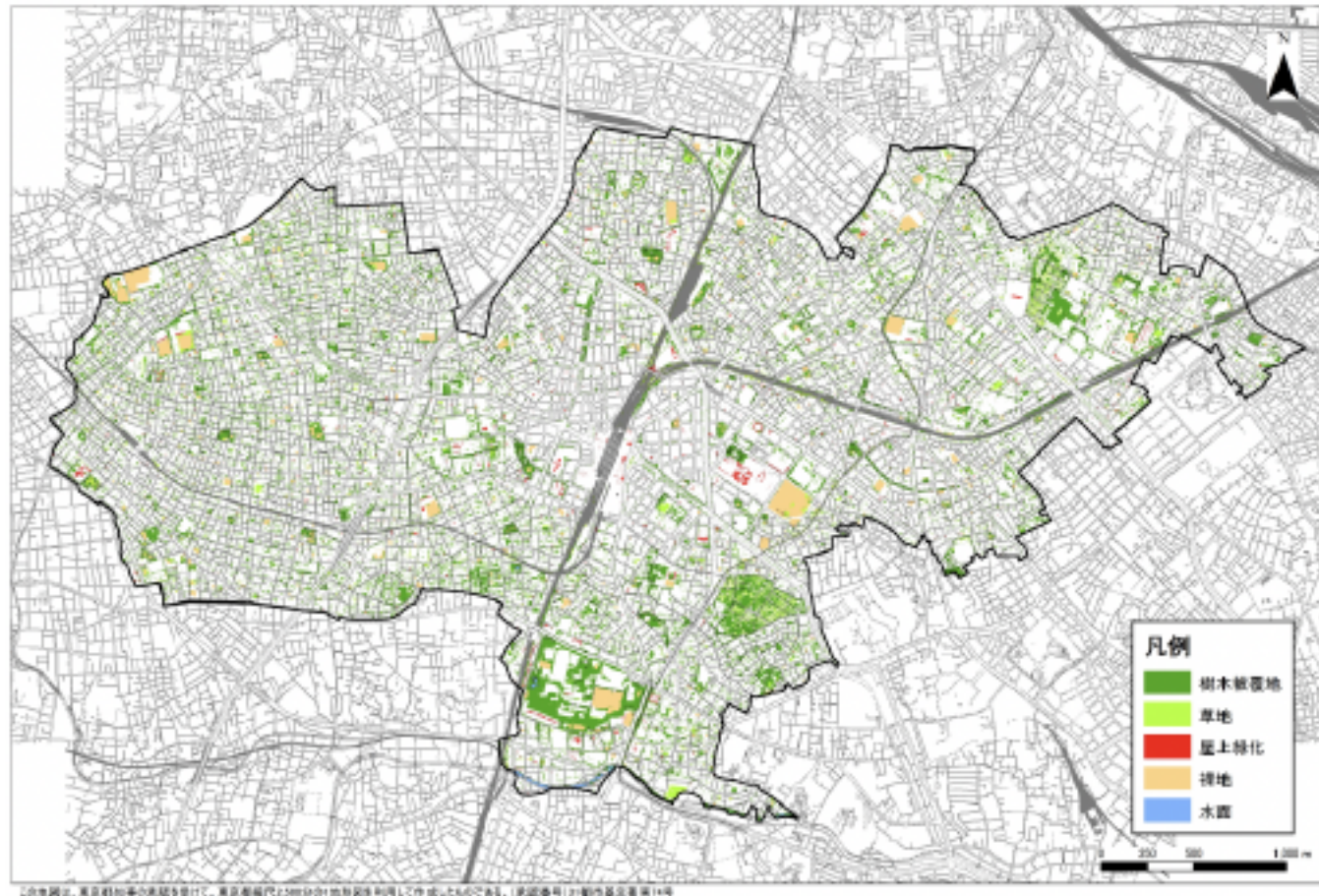


【図】豊島区内の緑被地等の構成

項目	平成27(2015)年度		令和元(2019)年度		変化量	
	面積(ha)	割合	面積(ha)	割合	面積(ha)	割合
樹木被覆地	147.87	11.37	151.45	11.64	3.58	0.27
草地	14.09	1.08	14.41	1.11	0.31	0.02
屋上緑化	5.24	0.40	6.30	0.48	1.06	0.08
緑被合計	167.21	12.85	172.16	13.23	4.95	0.38

【表】緑被地等の推移

資料：豊島区緑被現況調査報告書（R2.3）



【図】緑被分布図



【図】地域別の緑被率

資料：豊島区緑被現況調査報告書（R2.3）

●豊島区の主な緑

都市の骨格となる幹線道路の街路樹や河川沿いの帯状の緑、学校や霊園の拠点となる緑、点在する公園

■公園緑地の緑 [P118参照]

■道路、鉄道沿いの緑

●放射26号線および放射77号線（グリーン大通り）、アゼリア通り、補助78号線および放射36号線の緑（都心の豊かなみどりから護国寺を経て、雑司ヶ谷霊園や池袋副都心、立教大学を結ぶ）

●都市計画道路の街路樹

●谷端川緑道、駒込駅から江戸橋まで続くJR山手線沿いや、西巣鴨中学校周辺の桜並木

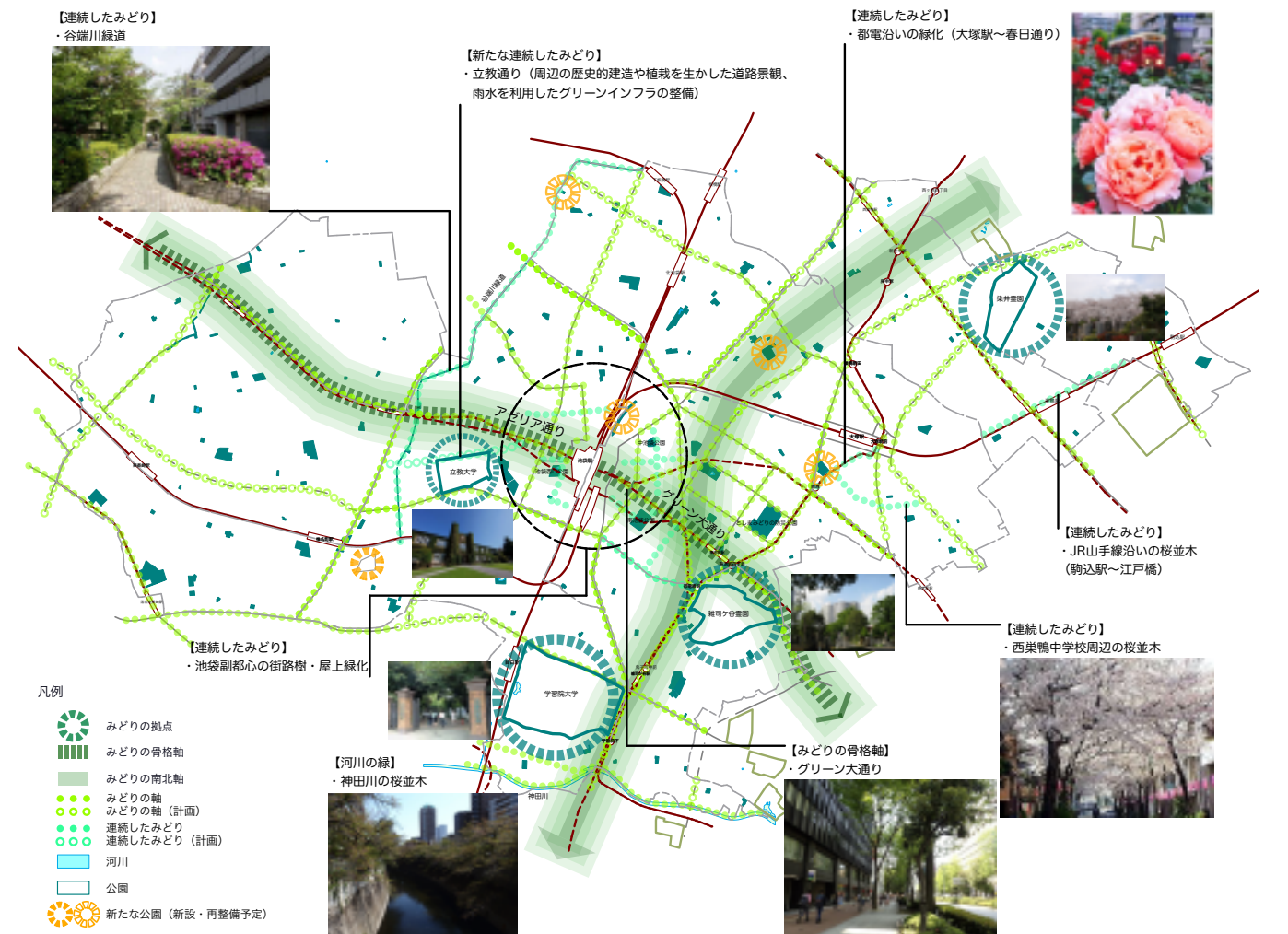
■河川の緑

●神田川の桜並木（区内の水面は新宿区との境を流れる神田川のみ）

の緑などが、みどりのネットワークを構成する要素となり、寺社や住宅地などのみどりをつないでいる

●大塚駅から春日通りまでの都電沿いの緑化

●新たな連続したみどり：立教通りでは交通体系の見直しとともに歩道拡幅、無電柱化、周辺の歴史的な建造物や植栽の特色を生かした道路景観や、雨水を利用したグリーンインフラの整備などを検討



【図】幹線道路の街路樹や鉄道、河川沿いの帯状のみどりなどの連続したみどり

■学校の緑

- 豊島区のみどりの拠点：学習院大学、立教大学
- 小中学校の屋上緑化：改築に合わせた屋上緑化などの整備（目白小学校、西池袋中学校など）
- 学校の緑縁空間：学校の塀を後退させて遊歩道を確保（西池袋中学校、駒込小学校など）

●学習院大学



- 学校教育でのビオトープ：仰高小学校、駒込小学校、清和小学校、池袋本町小学校・池袋中学校、池袋第三小学校、南池袋小学校、目白小学校、長崎小学校、富士見台小学校、千登世橋中学校
- 「学校の森」：長崎小学校など区内全公立小中学校

●立教大学



●目白小学校の屋上緑化



●駒込小学校の緑縁空間



●池袋本町小学校・池袋中学校のビオトープ



■住宅地の緑

●長崎・千早地域の住宅地



●大塚地域の住宅地



■都市開発の緑

●としまエコムーゼタウン



■屋上緑化の緑

- 屋上緑化のある建物は2,095箇所、緑化面積は62,985㎡、一箇所当たり緑化面積は30.1㎡、その建物数の約8割が住宅系で、緑化面積では集合住宅が住宅系全体の6割を占める
- 平成27（2015）年度調査と令和元（2019）年度調査の比較では、区全体の屋上緑化箇所数は11箇所減少し、緑化面積は10,583㎡増加しており、施設の建替えによって屋上緑化が整備され、緑化面積が増加したと考えられ、緑化率の増加要因となっている
- 1000㎡以上の屋上緑化（5箇所）
- サンシャインシティ（4,049㎡） ●豊島清掃工場（1,112㎡） ●池袋本町小学校・池袋中学校（1,079㎡） ●豊島清掃事務所（1,011㎡） ●西武百貨店（1,031㎡）

●西武池袋本店 9 階屋上「食と緑の空中庭園」



●大塚駅



●本庁舎屋上庭園「豊島の森」



●サンシャインシティ専門店街アルパ屋上「サンシャイン広場」

